

2 花巻市立新堀小学校

(1) 事業概要

- ア ショート訓練の実施と防災学習会
- イ デジタル簡易登録局携帯機を活用した避難訓練

(2) 事業の取組内容

- ア ショート訓練の実施と防災学習会

前年度の防災教育の成果を活用しながら、ショート訓練に取り組んできた。全体での避難行動以外にも、児童一人一人が主体的に考えて自分の命を守ることをねらったショート訓練の重要性を児童が理解してきたことから、さらにその価値を意識付けるための防災学習会を実施した。

市教委の防災教育担当指導主事を講師として、主に地震防災にかかわる避難行動の必要性や具体的な避難行動のとり方、ショート訓練の実際を全校児童対象に行った。学習会後は、防災学習会の内容について、教職員による研修会も併せて実施した。

事前アンケートでは「自分は自然災害にあうことはない」と回答している児童が多かったが、学習会後は、

「いつ災害にあうかわからないからしっかり普段の訓練をしたい」という感想が多く見られた。



- イ デジタル簡易登録局携帯機を活用した避難訓練

縦割り班清掃時に地震が起きたという想定での避難訓練において、高学年のリーダーを中心とした避難と職員のデジタル簡易登録局携帯機を活用した訓練を実施した。

個々のショート訓練で自分の命は自分で守るという意識が高まっていたことから、縦割り班の助け合いを含めた主体的な避難の仕方を学ぶことをねらった。あわせて、職員間の連絡にデジタル簡易登録局携帯機を使用し、災害時の連

絡の取り方についても確認した。

校内に意図的に通れない場所などを作り、より実践的に訓練を行ったが、児童の主体的な行動により一斉避難とかわらない時間で自主避難を完了することができた。

Ⅲ 取組の成果と課題

1 成果

- (1) 小中学校合同避難訓練を通して、災害についての正しい知識や災害発生時の対処法、日常の防災のあり方等について学ぶことができた。小中学校の連携を通して居住区ごとの交流を図ることができ、主体的な地域防災・減災活動につなげることができた。(宮野目中)
- (2) 生徒の主体的な避難訓練にあわせて防災学習会を実施し、自分たちの取組を振り返るとともに、訓練自体の価値付けを行うことで、主体的な避難訓練について意識を高めることができた。(宮野目中)
- (3) デジタル簡易登録局無線機を活用することにより、児童主体の避難訓練に併せて、指導者の連携の在り方や実際の避難行動の支援の方法を検討することができた。(新堀小)
- (4) ショート訓練を複数回実施し、主体的に自分の身を守るための訓練の在り方を検証することができた。(新堀小)

2 課題

- (1) 児童生徒への直接的な取組は計画的に進めることができたが、教職員の主体的な防災教育にかかわる研修のあり方を検討する必要がある。また、県の防災研修との連動を図った形で、計画的な教員研修の構築を進める必要がある。
- (2) ショート訓練や小中合同避難訓練が次年度へ確実に引き継がれるよう、報告書による成果の普及や、各校での担当者間、教職員間での情報共有を確実に進める必要がある。また、近隣の学校との連携を重視し、それぞれの避難訓練の様子などを交流する機会なども設ける必要がある。
- (3) 学校での取組を地域に積極的に発信するとともに、地域からの協力をさらに得ることができるよう、行政面からの支援の充実が求められる。

